

## 市長の“こんにちは訪問”（第15回）報告書

日時：平成29年4月21日（金）  
午後1時30分～午後2時30分

### ゆうき福祉会 すだち作業所

第15回は「すだち作業所」を訪問しました。すだち作業所は、就労移行支援及び就労継続支援B型事業を営む施設であり、障害があり雇用契約に基づく就労が困難である方に、就労機会の提供を通じて次のステップを目指すための支援をしています。主な事業は、青果物のパッケージ作業、水耕・土耕栽培、カレーショップの運営等です。

すだち作業所は、2002年に南永井の所沢総合食品地方卸売市場の一角で、利用者9人、職員2人からスタートしました。市場内という特殊な環境で、青果物のパッケージ作業を請け負うことから始まったこともあり、すだち作業所の「すだち」は、果物のスタチと、利用者みなさんが巣立っていけるようにという願いを掛け合わせて名づけられました。

その後、事業は拡大を続け、現在では南永井にて土耕栽培、日比田で水耕栽培を、また、亀ヶ谷にて「すだち亀ヶ谷作業所」を運営し、そして今年1月には泉町のこどもと福祉の未来館内に「temi cafe」をオープンしました。市外にも作業所を構えており、現在の利用者数は150人に上ります。



野菜はすべて無農薬栽培です

今回訪問したのは、日比田にある水耕栽培のハウスと南永井にある所沢総合食品地方卸売市場内の作業所です。運営法人理事の野口さんが施設を案内してくれました。

まずは、日比田のハウスに行きました。ここでは主に水耕栽培を行っており、ベビーリーフやサラダ菜等を育てています。写真のとおり、ハウス内にはたくさんの緑が広がっていました。野口理事は「集団作業が苦手な方も、ここに来るとなんだか落ち着いて働くことができるみたいなんですよね～」と話されていました。

育てた野菜は、「temi cafe」で販売したり、「カレー屋さんすだち」や、すだち亀ヶ谷作業所で作っている仕出し弁当のサラダとして使用しています。特に人気があるのがマルチリーフです。葉がギザギザしているのでドレッシングがよく絡み、サラダにはもってこいです。

また、土耕栽培による玉ねぎ作りにもチャレンジしています。かぶせたシートが風で飛んでしまったりするなど、一筋縄ではいかず、現在奮闘中ですが6月には収穫予定です。



マルチリーフを市長に説明する野口理事(写真右)と利用者の木下さん(同左)



日比田のハウスの皆様、ありがとうございました！

すだち作業所マスコットキャラクター  
「すだっちゃん」



続いて、南永井の所沢総合食品地方卸売市場内の作業所を訪問しました。

ここでは、依頼された野菜や果物を袋詰めし出荷しています。日比田のハウスで育てた野菜もここで袋詰めされます。ほとんど年中無休で作業しており、特に冬季はみかんの袋詰めがあるため、大忙しとなります。

市場内に作業所があるのは、すだち作業所が国内唯一ですが、はじめは法律等の制約から作業所の開所は難しかったそうです。しかし、当時の市場関係者が市に働きかけ、協議を経て、様々な条件をクリアし開所することができました。



きれいな葉と汚れた葉を選別して袋詰めします

利用者の方によって得意な作業がそれぞれ異なり、野口理事からは「すだち作業所は野菜のパッケージ作業に限らず、ハウス栽培、カレー屋さんやカフェなど、様々な作業を提供しながら利用者さんの適性をみていこうと考え、意識的に幅広く仕事を取り入れています。」とのお話がありました。

### 【市長メッセージ】

すだち作業所を訪問して、心も体もうきうきとしています。働く人々の生き生きとした姿がそうさせたのでしょうか。すだち作業所では野菜を栽培（第一次産業）するだけでなく、加工（第二次産業）し、さらに流通・販売（第三次産業）まで取り組んでいます。つまり、農林水産省が推進する6次産業化を達成しているのです。

育てた野菜は、市場の中にある「カレー屋さん すだち」や、こどもと福祉の未来館内の「temi cafe」で食べることができます。また、定期的に野菜の直販も実施しています。皆様、ぜひ食べてみてください！



「カレー屋さん すだち」市場内にあります

ゆうき福祉会 すだち作業所が発足して15年、いろいろなことを乗り越えて、今、大きく力強く、素晴らしい活動をされています。さらなる発展を願わずにはられません。



すだち作業所の皆様、ありがとうございました！